

2020年11月22日(日)
8:30-9:30 WEB開催

新規エビデンスから 乾癬診療の理想を追求する

座長

藤田医科大学医学部 皮膚科学講座 教授 杉浦 一充 先生
浜松医科大学 皮膚科学講座 教授 本田 哲也 先生

1 基礎と臨床の両側面からみた 乾癬治療の最前線

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 皮膚科学分野 教授
森実 真 先生



乾癬の病態解明は日々進歩している。我々は乾癬病変部表皮角化細胞が産生する新規IL-6/IL-12ファミリーサイトカインに焦点を当て、研究を進めており、基礎の側面から乾癬の病態を考察したい。臨床の側面においては、IL-17Aを阻害するIL-17A阻害薬が、本邦で臨床使用が可能になってから約5年が経過した。ここでは、IL-17A阻害薬のなかでも特に臨床経験が長いセクキヌマブについて、これまで蓄積された臨床実績と新規エビデンスからそのプロファイルを改めて紐解き、皮膚科医ならびに乾癬患者にとつての安心につながるその価値について考えてみたい。また、乾癬の見逃せない合併症であるPsA (Psoriatic Arthritis: 乾癬性関節炎) においては、2019年に策定された乾癬性関節炎診療ガイドラインにおいて、セクキヌマブがTNFα阻害薬と同様のエビデンスレベル、推奨度で評価されており、この機会にアップデートしておきたい。本セミナーでは、基礎と臨床のそれぞれの側面から治療の最前線を俯瞰しつつ、乾癬診療の理想像について私見を交えながら考察したい。

ご略歴	平成5年3月 愛媛県立宇和島高等学校卒業	平成19年7月 米国カリフォルニア大学サンディエゴ校 医学部皮膚科学講座博士研究員
	平成12年3月 岡山大学医学部卒業	平成21年9月 岡山大学病院皮膚科医員
	平成12年4月 倉敷中央病院 研修医	平成21年10月 岡山大学病院皮膚科助教
	平成14年4月 岡山大学大学院医歯学総合研究科入学	平成30年1月 岡山大学病院皮膚科講師
	平成17年1月 国家公務員共済組合連合会共済病院 皮膚科医員	平成30年7月 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 皮膚科学分野教授
	平成17年9月 岡山大学医学部・歯学部附属病院皮膚科 医員	現在に至る。

2 患者の視点で考える乾癬診療 ~外用療法の見直しから近隣施設への逆紹介まで~

東邦大学医学部 皮膚科学講座 講師 橋本 由起 先生



近年乾癬治療薬の進歩は目覚ましい限りであり、患者の多様性に応えられるようになりつつある。一方、我々皮膚科医が、患者の多様性に沿いながら一人一人に最適な治療スタイルを提示することは大切であるが、実際は難しいと感じる。例として多種ある生物学的製剤から、背景の異なる患者にとつての最適な治療スタイルはどのように導けば良いのだろうか。患者の利便性やウィズコロナの時代を考慮すれば、患者の住居近隣施設への逆紹介も見据えた地域連携施設との良好な関係を構築し、安心して投与継続可能な薬剤を選択することは今後のキーポイントになるかもしれない。本セミナーでは、これまで自施設で取り組んできた乾癬診療における院内連携や病診連携を活かしたチーム医療について紹介し、これからの時代における乾癬診療の在り方や薬剤選択のポイントについて概説する。また、自施設において前外用療法に抵抗性の患者に対して配合外用薬に切り替えることで患者満足度の改善が得られたと報告した結果を踏まえ、生物学的製剤導入前に見直すべき外用療法として、低下しやすい外用アドヒアランスを改善するための工夫についても紹介する。

ご略歴	平成12年3月 東邦大学医学部卒業	平成22年9月 東邦大学医学部皮膚科学講座助教
	平成12年5月 東邦大学医学部皮膚科学第1講座入局	平成23年7月 東邦大学医学部皮膚科学講座医局長
	平成19年4月 東邦大学医学部皮膚科学第1講座助教	平成27年4月 東邦大学医学部皮膚科学講座病棟医長
	平成20年9月 ハーバード大学医学部皮膚科 リサーチフェローとして留学	平成29年4月 東邦大学医学部皮膚科学講座 講師、外来医長
	平成21年9月 シンシナティ大学医学部皮膚科 リサーチフェローとして留学	現在に至る。

